

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	安全	25年度事業・施策評価結果			責任者	総務部 危機管理室担当課長
施策名	防災・危機管理機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	制限区域への出入管理情報システムの導入	継続	維持	維持	連絡先	052-654-7813
目的	対象(誰・何を)	コンテナターミナルの出入管理			連携先	港営課、港湾管理事務所
	意図(どうい う状態にしたいか)	セキュリティレベルの高い効率的な物流の確保			事業 期間	平成19~26年度
概要	国が進める国際港湾施設(コンテナターミナルを対象)への出入管理情報システムの導入に向けて、国、港湾関係者及び利用者とは情報を共有します。				根拠 法令等	平成22年3月30日国 土交通省告示第251 号
26年度の実施予定	平成26年9月からのシステムの本格導入に向けて、システムの十分な試行運転を実施するとともに、導入を見据えた運用方法及び使用料等諸条件の最終調整を行っていきます。				実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
					関連 シート	

2 DO(実施)

26年度に実施した 内容・結果	平成26年10月より、飛島ふ頭北・南の公共コンテナターミナルにおいて、出入管理情報システムを本格稼働しました。 なお、平成27年度からは、特例港湾運営会社に指定されている名古屋港埠頭(株)が同コンテナターミナルを管理運営します。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	合計(19年度~)	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	4,358	3,504	1,762	19,955	
合計	千円	4,358	3,504	1,762	19,955	

3 CHECK(検証)

指標名	24年度	25年度	26年度	最終目標	26	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
出入管理システム本格稼働までの工程(全3工程) (進行管理型)	目標	-	-	3	3(累計)	出入り管理システムが本格稼働するまでの工程 ①システム設計②試行③本格導入	
	実績	1	2	3			
	事業進捗状況(26年度)			(順調) やや遅れ ・ 遅れ			
出入管理システム導入に向けての情報の収集(回) (単年度管理型)	目標	-	-	6	6	国、中部地方整備局との会議等により情報を収集を行った回数 ※平成26年度はシステムが10月に稼働したことから、目標値及び実績は半年分となっております。	
	実績	17	10	5			
	事業進捗状況(26年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	出入管理情報システムが本格稼働したことで、目標を達成しました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 公共コンテナターミナルの保安の強化と物流の効率化との両立を図るため、出入管理情報システムの導入が必要です。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ これまで実施したシステムの改善により、本格導入に至ったことで、セキュリティレベルの高い効率的な物流の確保が可能となりました。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 適切な人員で対応し、最小のコストで成果を上げました。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
完了			・平成26年10月、出入管理情報システムの本格運転を開始しました。
課題	27年度以降の取組		